

平成 19 年 9 月 13 日

東京フォーラム

於：湯島聖堂

中齋塾 東京フォーラム 第 5 回講話

先月は充電期間でお休みを戴きましたので、久しぶりにお会いできて嬉しいし、ワクワクしています。

最初にお聞き致します。

昨日一日嘘をつかなかった方、どれくらいおられますか？

・・・(沢山手が挙がる)

先日、萩本欽一さんがテレビでマラソンに挑戦しましたね。

なぜマラソンに挑戦しようと思ったのか話をしていたのが、印象に残りました。

「60 歳過ぎたら、明日が来るのが嬉しくなくなったから・・・」という台詞でした。

60 歳を過ぎると氣力も衰えるし、体力も衰えて、明日が楽しみだという気持ちがだんだん減ってきているのだと思いました。

小さい頃ですと、遠足の前の晩などは、ワクワクして眠れないということが皆さんも経験があると思いますが、大人になると、いつの間にかそういう事には縁遠くなります。

60 歳を過ぎたら、もう遠い彼方になっている。

それに萩本欽一さんは氣が付いたのだと思いました。

いつもの質問ですと、「昨夜、満足して眠れた方はどれくらいおられますか？」ですが、今日はそれにプラスして、「明日が来るのが楽しみだ、とワクワクして寝ましたか？」をお聞きします。

明日が楽しみだと思って眠った方、どれくらいおられますか？

・・・(数人手が挙がる)

これは自分で、<明日が楽しみだ>というものを作らなければなりません。

眠り方がその人の心身に相当な影響を与えると感じますので、これから中齋塾フォーラムでお聞きするのは、<嘘はつきませんでしたか？>と同時に<満足して一日が過ごせて、明日が楽しみだと思って眠れましたか？>という 2 つの質問をしたいと思っています。

安倍首相は多分、昨夜は熟睡して眠れたと思いますね。

心の中にあるものを出したのだから、今朝は食欲も出たのではないのでしょうか。

精神的なものが相当影響すると思います。

先ほど比田井幹事に論語を素読して戴きましたので、少し解説致します。

「曾子曰く、吾日に三たび吾身を省みる。人の為に謀りて忠ならざるか。朋友と交りて信ならざるか。習わざるを伝えしか。」

吾日に三たび吾身を省みる・・・これは渋澤栄一さんが一生涯守り続けた言葉です。

「これによって<渋澤老人の記憶術>が生まれた」とご本人が言っておられます。

渋澤栄一さんは夜寝る前に、今日一日どなたとお会いして、どういう約束をしたか・・・を思い浮かべて、満足してから眠ったそうです。

ご存知の通り渋澤栄一さんは<近代資本主義の父>と言われた方ですが、その方が現実には、一所懸命これを守り信頼を得ていたと考えて読むと、また一味違うと思います。

人の為に謀りて忠ならざるか。・・・人さまのために良かれと思って一所懸命やったけれども、果たしてそれは、誠心誠意相手の為になるような行動をしたのだろうか。

ここで注意すべき事は、相手の為に良かれと信じて行う行動ほど、相手を傷つけるものはありません。

相手が聞く耳を持っている時に、相手を傷つけないように注意をしなければいけません。

朋友と交りて信ならざるか。・・・友人と付き合っていて、相手の信頼を損ねるような言動をしてはいなかったか。

友達が知らず知らずの間に遠ざかることがあります。

自分の何気ない言動が、相手の心を傷つけることがあります。

習わざるを伝えしか。・・・習ったことをよく噛みしめて、自分のものにしてから人さまにお話しをしているかどうか。

自分で習熟していないものを伝えてはいないだろうか、よく考えてみるとよいですね。

人さまから教わったものを、よくよく噛みこなして自分のものにしたという実感が起きてから、伝えるべきです。

初めての方がおられますから、中齋塾フォーラムの目的を申します。

中齋塾フォーラムでは、「知足」という考え方を基本に生きてゆこうと考えています。

なぜ<足るを知る心>が必要か・・・。

今の日本人は、足るを知る心があまりにも不足しています。

あれも欲しい、これも欲しい・・・という欲をかく心が、家庭や組織の中で問題を起こしたり、友人関係の信義を損ねたりします。

ちょっと引けば良いのですが、ちょっと出してしまうから問題が沢山起こるのです。

日本人が生き残る為には、足るを知る心をもっとよく考えて、我がものとしましょう。
それができたならば、世界に向かって発信していきましょう。

今、人類が絶滅に向かっているという認識が世界に広がっています。

私は夏休みの間に『アースダンス』という本を何度か読み直しをしたのですが、その中で「西洋の科学者は、世界が第六の絶滅期に向かって人類はスイッチを入れた、という認識で一致している」とありました。

私もそういう実感があります。

皆様方も、“何だか地球はおかしい” “人間もおかしい” “だんだん悪くなっている” という実感があると思います。

それらを科学的に分析して書いてある本です。

エリザベット・サトゥリスさんという未来学者が書いています。

中斎塾は、「知足」— 足るを知る心を身に付けて実行していきましょう— を基本哲学にしています。

具体的には、嘘をつかないでいきましょう。

同時に、明日が楽しみだと思って眠りましょうということです。

では心に残る言葉を申します。

本日皆様にご紹介する本は、『國の個性』（木内信胤著 プレジデント社）です。

「ひらめき」とは何か。理屈を離れて、“あっ、さうだ”とわかる、その心の働きですが、それは、「総合的直観力」と呼んでもいいものです。

木内信胤先生は私が師匠と呼ばせて戴いた唯一の方です。

木内信胤先生の言葉で、印象に残っているものがございます。

終戦の時には大蔵省が経済復興の能力がありませんでしたから、政府が経済復興の為の特別の委員会を作って、木内信胤先生が委員長になられました。

その委員会には、色々な省庁から若手の官僚が送り込まれてきたのですが、その中に通訳で非常に優秀な人がいたそうです。

木内信胤先生曰く、「あの子はねえ、通訳の能力は非常に良かったのだけれど、なまじ総理大臣など、やらなければよいのに・・・」

あの子とは、宮沢喜一さんのことです。

木内信胤先生がGHQと話をする時に、大蔵省から通訳として送り込まれたのが宮沢喜一さんでした。

宮沢喜一さんが首相としてどうだったかの評価は評論家に任せるとして、経済面に関し

て指導力を発揮したとは私は思いません。

逆に日本の国をマイナスの方向に誘導していったと感じています。

木内信胤先生の言葉で言えば、今回の安倍さんも「あの子には困ったものだ・・・」という言い方になったでしょう。

木内信胤先生は、宮沢喜一さんの総理大臣としての資質を見抜かれたこともそうですが、総合的直観力を使って様々な予言をされました。

ベルリンの壁について話されたことも、非常に印象強く残っています。

ベルリンの壁が崩壊する3ヶ月くらい前に、

「ベルリンの壁は政治的・歴史的な意味を終了している。もうあれはなくなるよ。せいぜい3ヶ月かそこらではないかね・・・」と言っておられました。

木内信胤先生は総合的直観力について、こうおっしゃっていました。

「木の葉が一枚ひらひらと落ちるのを見て、「もう秋なんだなあ」と思う心は、日本人の特性です。外国人にはない心の働き、感覚です。日本人はそういう感覚が自然と持てるから、優秀な素晴らしい民族なのだ」

この感覚の奥には、相当な体験を積んでいます。

知識の積み重ね、物事をとことん考え抜いた雑識、それらの集大成があります。

そういう大量のものがあって初めて、自然と「ああ、秋なのだ」と感じる。

この心の作用を、木内先生は総合的直観力と言っているわけです。

ただ総合的直観力は、どなたにでも出来るというものではありません。

一つのこと、自分の一生涯のテーマのようなものを真剣に追求する。

毎日毎日、四六時中ずっと考え続けていって、頭が疲れきってどうにもならなくなった時に、例えば庭を散策した時にはっと気が付く。

はっと気が付くためには、よほどの日々の研究、考え、理論の分析、それらの積み重ねがあるのです。

そういうものをずっと積み重ねなければ、「葉っぱがひらひら一枚落ちた・・・」というだけで終わってしまうのです。

一つのこと寝食を忘れて考え詰めた挙句、何かに遭遇した時はっと閃き、気が付く。

これが総合的直観力です。

いわゆる<カン><悟り>というものです。

木内先生の総合的直観力は、何にでも興味を持つ、何にでも答えを出そうと努力する。

ですから木内先生は「私は疑問があると調べるのだよ。質問をされると私は森羅万象答

えられないことは何もない。」とおっしゃっていました。

ただ質問させて戴くと、「それは分からない。」という事もございました。

「分からないという事も立派な答えですよ。これだけの勉強を積み重ねている人間が分からないということは、質問自体がおかしいか、又は私の勉強がまだ足りないのか、いずれにしても洞察力が不足しているのであろう。分からない時は、分かりませんと言う勇気を持ちなさい」とおっしゃったのが印象に残っています。

適当にお茶を濁して答える人が世の中に多すぎます。

「今の学者は何でも分析、分析と分けていくから、物事が分からなくなってしまう。これからの学問は、分析して分かれて広がったものを全部にまとめて、総合的に判断する力を持たねば学者としてはものにはならない。」とも言われています。

ですから、総合的にもものを見る力を私たちは持つ必要があるのです。

木内先生は新聞を四紙くらいとられて、自分で赤ペンで色を付けて判断をしておられましたから、別に特殊な方に話を聞いて、「ベルリンの壁が崩壊する」という事を言ったのではありません。

歴史的にもものを見てみると、“ベルリンの壁はもう歴史的な使命は終わった。

後は総合的直観力で、“崩壊は何時頃か・・・” となるわけです。

例えば共産主義についても、木内先生は

「親不孝な子が考え出した理論など 100 年、200 年続くものか。200 年、300 年と、国民を騙し続けることはできない。従って共産主義は終焉が来ている。」と言われました。

このように基本的なものの考え方があって、その上に立って歴史的な自分の判断を入れ発表されています。

私自身で似たようなことがないか考えてみましたところ、一つありました。

一昨年の小泉さんの郵政改革の解散総選挙の時の話です。

小泉さんが解散を発表したのを聞いた瞬間に、直感的に思いました。

翌日、地元のロータリークラブでの会長挨拶で、

「マスコミが小泉さんの言動をありのまま伝えれば、雪崩現象で圧勝するでしょう。マスコミが足を引っ張る言動をすれば、辛うじて小泉さんは勝つだろう」と話しました。

まだ新聞は何も言っていない時です。

私は、木内信胤先生の総合的直観力プラス安岡正篤先生の干支学をベースに考えております。

干支学は60年周期で考えます。

昨年は丙戌ですから、大きな台座の上に鉞が置いてあるという意味です。

つまり世の中から首を切られた人の生首が、ずらずらと並ぶ年だと申しました。

丙戌を受けて、今年は丁亥です。

昨年落ち損ねた政治家・官界の生首がまだ残っているから、その一掃整理があるでしょう。

特に亥だから、思いもかけない事件があるだろうと昨年の暮れに申し上げました。

実際今年を振り返ってみると、結構生首が飛んだなと思います。

安倍さんは自分で自分の首を飛ばしたわけです。

外国から見たら、日本は訳の分からない国だ、と映ったと思います。

私の頭の中にあるのは、北朝鮮が日本にミサイルを飛ばして、実際に一つ二つどこかの都市に落ちて爆発をするという事件があってもおかしくはない年、何れそういう事が起きると思っています。

それは干支学から推して考えているわけです。

総合的直観力についてまとめを申します。

木内信胤先生のやっておられた事を頭に思い浮かべながら申し上げます。

肝心な事は・・・、

○ 何にでも興味を持つことです。

○ 年のいった方のお話を聞くよりは、なるべく若い人の話を聞こうという姿勢を持つ。実際、木内先生は若い人の中にどんどん進んで入っていかれました。

○ 分からないことがあれば、分かるまで考え続ける。

1年でも2年でも、10年でも20年でもずっと考え続けることです。

○ 自分自身の専門分野を、最低三つは持った方が良い。

井戸を掘っていく時に、一つでは枯れることがあります。

いくつかのテーマを持って研究していくと、途中でバイパスがつながることがあります。

専門的なものをどんどん深く掘っていく時に、一つで終わりにしないで、2つ、3つの専門分野を持たれると良いと思います。

○ 自分が知らない事を教えてくれる師匠・友人を出来る限り持つと良い。

総合的直観力はそれらを積み重ね、積み重ねして80年90年経つと、普通の直観力に総合力が加わります。

時代の流れとして考えると、今までの科学は分析の時代でしたが、これからは総合の時代

に入っています。

先ほどご紹介した『アースダンス』にも、
「西洋は科学と宗教がだんだん融合しつつある。東洋の仏教的考え方を、西洋は取り入れ始めた。」と書かれています。

お時間が参りましたので、総合的直感力プラスアルファのお話を申します。
バクテリアの話です。

人間は大自然のルールに従って生きているから、生きていられるのです。

大自然のルールに外れたら、生きていきません。

大自然のルールとは・・・

○ 酸素

酸素を身近に感じるには、深呼吸をすればよいでしょう。

○ 太陽

太陽がなければ人間は死んでしまいます。太陽を身近に感じる為には、1日に10分程度日光浴をするとよいでしょう。

○ 土

できれば土に手を当てて、実感すると良いと思います。

○ 水

・・・これらがなければ人間は生きていきません。

“何故、自分は生きていけるのだろうか”ということを考え、大自然の法則を考えるとよいと思います。

大自然の法則を考える時に総合的直観力を活用すれば、自分なりに答えが出てくると思っています。

以上で本日の東京フォーラムは終了と致します。

有難うございました。